

東京ガスグループの環境に関わるデータから、主なものを抜粋し、最近5年間の推移を提示しています。

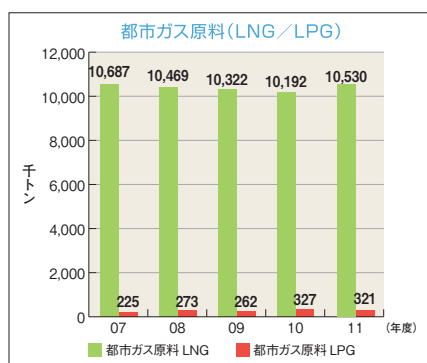
環境パフォーマンスデータ集

●集計対象

項目	単位	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	備考
お客さま件数	千件	10,380	10,513	10,637	10,739	10,855	グループでの件数。
グループ会社数	社	51	51	53	54	53	

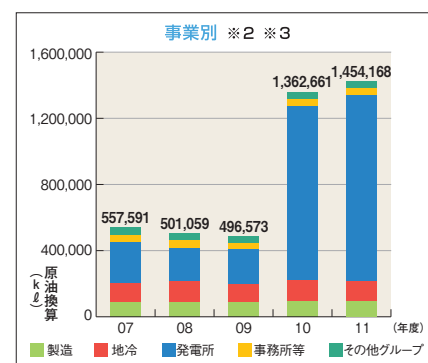
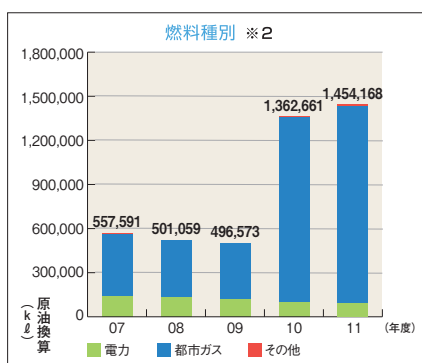
■エネルギー・水の使用と大気・水系への排出 ※1

原料



備考：東京ガス単体の都市ガス製造用

エネルギー使用量



備考：熱・電力グループ間融通による二重計上分を除く。発電所は連結ベースの発電所のみ対象

都市ガスは、化石燃料の中で最も環境性に優れたエネルギーである天然ガスを原料としており、その大部分は液化天然ガス(LNG)をタンカーで輸入しています。また、LPGは熱量調整のために使用しています。

当社グループは、都市ガス製造工場、地域冷暖房、発電所などを運営し、都市ガス、熱、電力などを供給しています。これらの事業活動において使われるエネルギーを電力、都市ガス、重油等のその他燃料の種別ごとに把握しています。これらエネルギー使用量については事業活動ごとに温暖化対策ガイドラインを設定して削減に努めています。2010年度に(株)扇島パワー(40.7万kW×2基)の発電所が営業運転を開始したため、エネルギー使用量が増加しています。

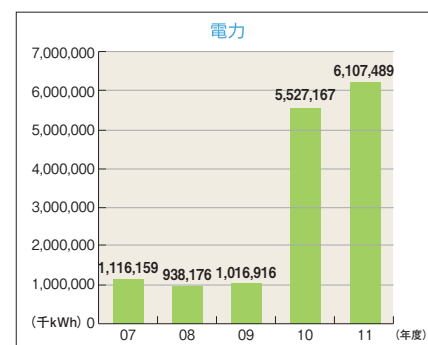
製造量



備考：他ガス事業者向け供給を含む。グループ販売量を除く



備考：地域冷暖房および地点熱供給のほか、都市ガス製造工場からの販売量等を含む。グループ間融通を含む



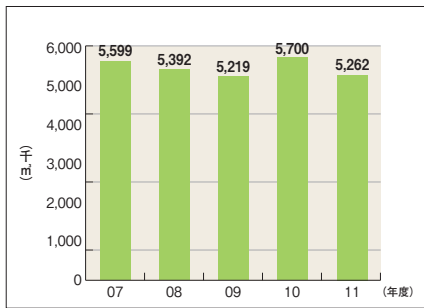
備考：発電所・地域冷暖房・地点熱供給における販売量。グループ間融通を含む。発電所は連結ベースの発電所のみ対象

都市ガス製造工場で気化・熱量調整した都市ガスを導管ネットワークを通じてお客さまへ供給しています。都市ガスは、ガス体で消費地まで直接供給できるので、製造・供給時のエネルギーロスが極めて少なくなっています。

天然ガスを使用したコージェネレーションシステムや吸収式冷凍機、ボイラ等を活用して蒸気や冷温水などを製造しています。また、地域冷暖房を運営し、熱源設備の一括管理による効率的運転や未利用エネルギーの有効活用を図っています。

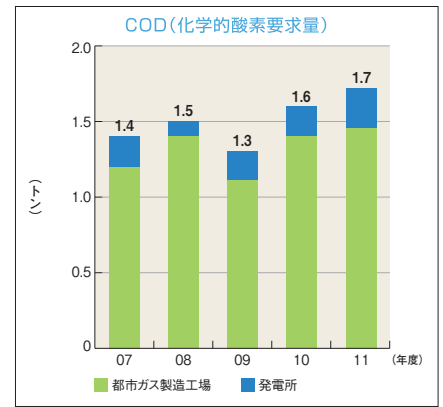
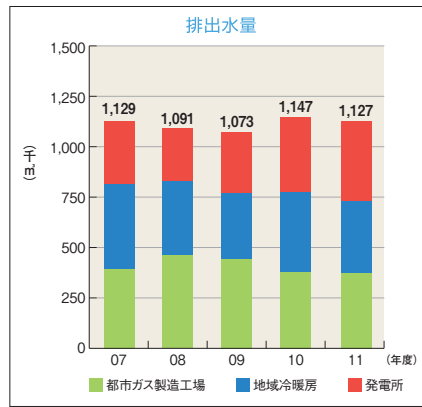
環境性に優れた天然ガスを燃料とし、世界最高水準効率である最新鋭のガスタービンコンバインド発電設備を採用して、環境負荷の少ない発電を行うことで地球温暖化防止にも貢献しています。2010年度には(株)扇島パワーの営業運転開始により発電量が増加しました。

水使用量(上水・工水)

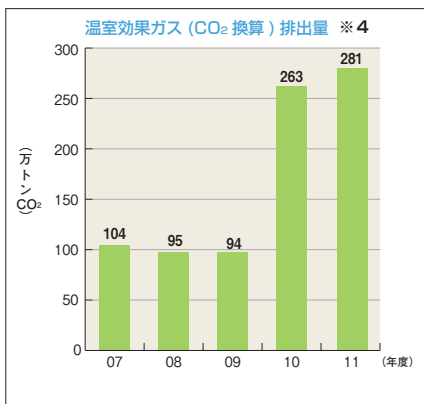


環境負荷低減への取り組みにおいて、水の使用量も重要と認識しており、水の使用量を把握し、有効かつ効率的な利用を図っています。

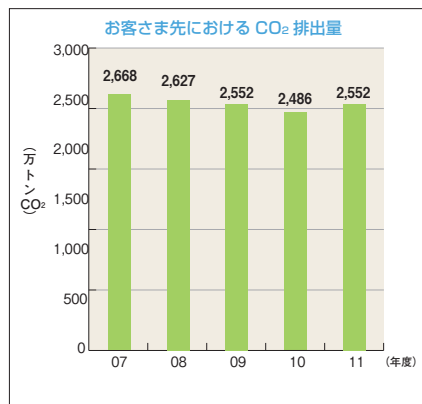
水系への排出



大気への排出



事業活動において発生する温室効果ガス (CO₂、CH₄) の排出量について把握しています。さらに、温暖化効果ガスの発生源であるエネルギー使用量については温暖化対策ガイドラインを設定し、環境負荷低減に努めています。2010年度は(株)扇島パワーの営業運転開始により増加しました。



当社グループの販売する都市ガスにより、お客さま先で日本全体の約2%のCO₂が排出されています。このCO₂排出抑制を重要課題と考え、機器効率の向上、コージェネレーションシステム普及、都市ガスへの燃料転換推進に取り組んでいます。

※1 東京ガス浜松町本社ビルほか東京ガスのビル内に所在する連結対象の関連会社(東京エルエヌジータンカー(株)、(株)エネルギーアドバンス、(株)ニジオ、東京ガスパイプライン(株)等)については、東京ガス(株)のデータに当該関係会社の全てあるいは一部のデータを含む。

※2 コージェネレーションを用いて電力販売を行っている地域冷暖房拠点については、エネルギー使用量を温対法の換算係数を用いて熱製造向けと発電向けに按分し、熱製造に用いたエネルギーなどのデータを「発電所」に計上。「事業所等」は、東京ガスの単体のエネルギー使用量のうち、都市ガス製造工場、地域冷暖房を除いた東京ガスの事業所等のデータ。「その他グループ」は地域冷暖房と発電所を除いたグループ会社のデータ。

※3 それぞれの事業活動によるエネルギー使用量原単位の増減を適切に評価するために、都市ガス製造工場の活動に他社向け受託加工を含めるなどしているため、他項に記載した諸データと異なる場合がある。

※4 CH₄(メタン)は排出量に温対法に定められた地球温暖化係数である21を乗じ、CO₂排出量に換算した。

※5 標準状態<0℃、1気圧>におけるCO₂排出原単位は2.29kg-CO₂/m³N

※6 「地域冷暖房」、「東京ガスの事業所等」における使用電力量の原油換算に関し、一般電気事業者からの購入分については、全て昼間電力の係数を使用した。

換算係数等

●CO₂排出係数

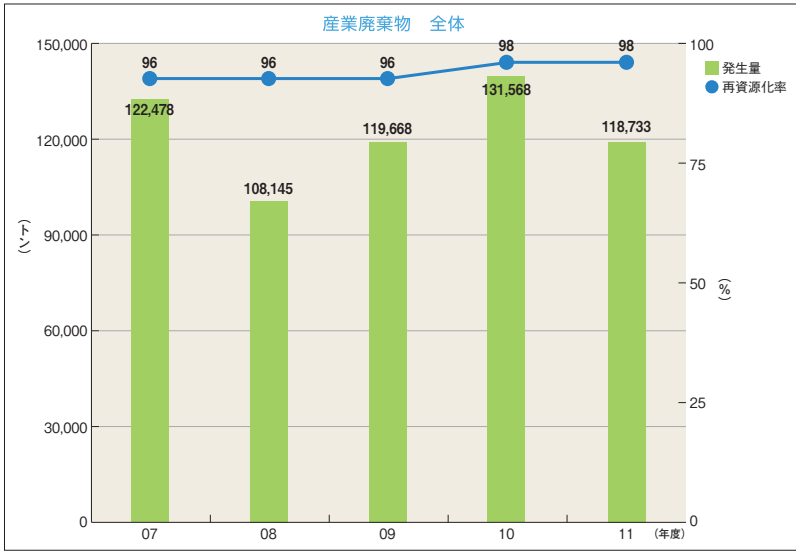
項目	単位	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	備考
都市ガス(東京ガスの13A)※5	kg-CO ₂ /m ³	2.21					東京ガスの都市ガス(13A)の代表組成より計算(15℃、ゲージ圧2kPa)
購入電力(全電源平均)	kg-CO ₂ /kWh	0.425 ほか	0.418 ほか	0.384 ほか	0.375 ほか		温対法の省令に基づき公表される電気事業者別の値
熱	kg-CO ₂ /MJ	0.057					温対法の省令に基づき公表された単位発熱量あたりの排出係数および44/12を乗じた数値を用いて算定
産業用蒸気	kg-CO ₂ /MJ	0.060					
A重油	kg-CO ₂ /L	2.71					
その他	kg-CO ₂ /L	2.62		2.58			
灯油	kg-CO ₂ /L	2.49					
燃料	kg-CO ₂ /L	2.32					
LPG	kg-CO ₂ /kg	3.00					

●単位発熱量

項目	単位	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	備考
都市ガス(東京ガスの13A)※5	MJ/m ³	45.00					東京ガスの都市ガス発熱量(0℃、1気圧)
昼間電力	MJ/kWh	9.97					[エネルギー使用の合理化に関する法律](省エネ法)
夜間電力	MJ/kWh	9.28					
購入電力 ※6	MJ/kWh	9.76					
熱	MJ/MJ	1.36					
産業用蒸気	MJ/MJ	1.02					
A重油	MJ/L	39.1					
その他	MJ/L	38.2		37.7			
燃料	MJ/L	36.7					
灯油	MJ/L	34.6					
ガンリン	MJ/L	34.6					
LPG	MJ/kg	50.2		50.8			
原油換算係数	kℓ/GJ	0.0258					

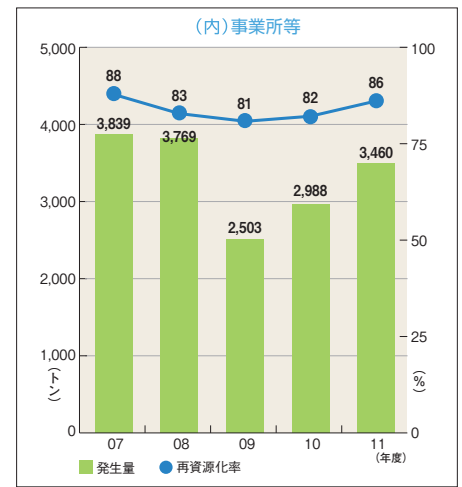
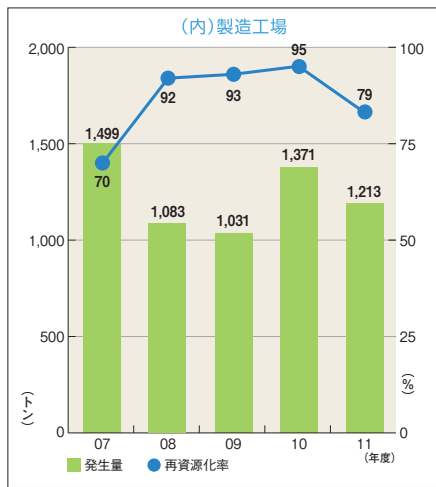
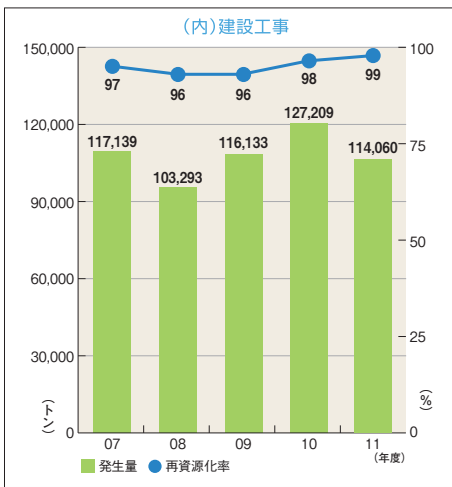
■ 廃棄物等の排出

産業廃棄物 ※1

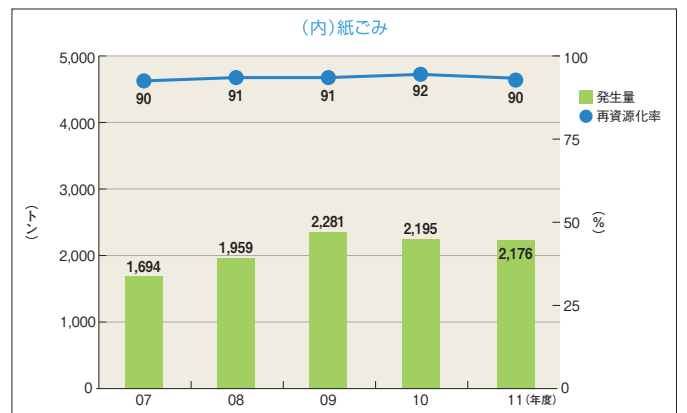
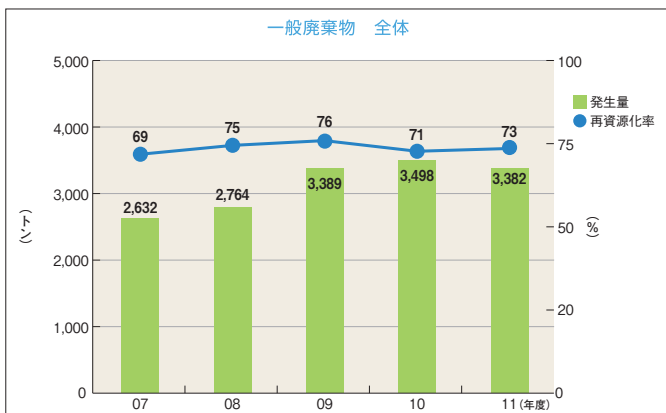


環境保全ガイドラインへの取り組みを推進することで、全体の産業廃棄物の再資源化率は高い水準を維持しています。

※1「製造工場」は、都市ガスを含む製品を製造する事業所、地域冷暖房および発電所におけるデータ。「建設工事」は、グループ会社が元受として受注した建設工事におけるデータ。「事業所等」は、「製造工場」および「建設工事」を除いたデータを記載。



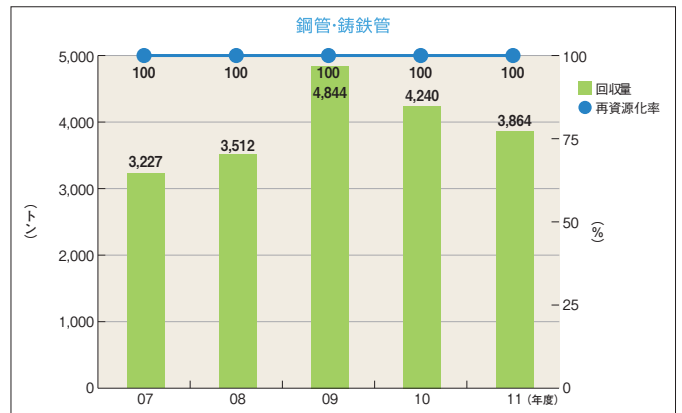
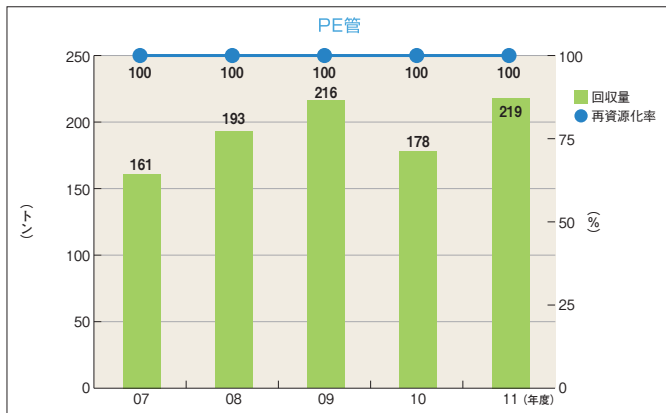
一般廃棄物 ※2



備考：一般廃棄物（紙ごみ含む）は2009年度より東京ガス都市部開発（株）のパークタワーにおけるテナント発生分を含む

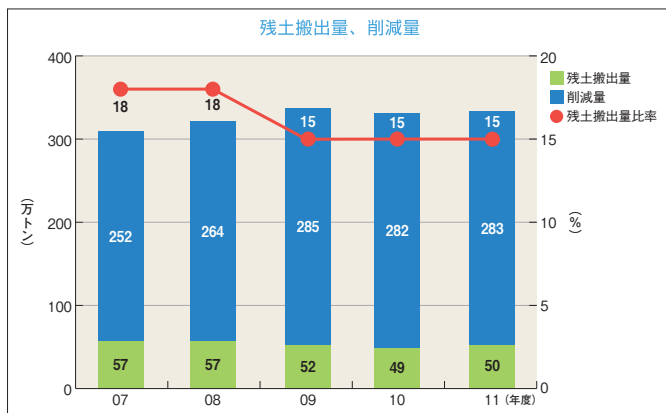
ガス導管工事から得られる副産物

備考:東京ガス単体のみ



ガス管の埋設工事で発生する廃ガス管のリサイクルを推進することで毎年100%再資源化を実現しています。ポリエチレン管は文具品の原材料として再資源化され、鋼管・鉄管も100%再資源化されています。

掘削土



備考: 関係都市ガス会社を含み、掘削土及びアスファルトコンクリートを対象とする

ガス導管の埋設工事で発生する掘削土等を削減するため、「小幅・浅層埋設工事」、「非開削工事」での減量化、発生土埋め戻し、改良土・再生路盤材の利用拡大で掘削土の3Rを推進しています。

お客さま先からの回収

●家電リサイクル法対応実績

項目		2011年度
家庭用エアコン	引き取り台数	21,594 台
	再商品化等処理台数	22,471 台
	再商品化等処理重量	959 トン
	再商品化重量	827 トン
	再商品化率	86 %
フロン	回収重量	13,180 Kg
衣類乾燥機	引き取り台数	5,591 台
	再商品化等処理台数	5,569 台
	再商品化等処理重量	198 トン
	再商品化重量	164 トン
	再商品化率	82 %

第三者保証

環境パフォーマンスデータは、信頼性を高めるため、KPMG あずさサステナビリティ株式会社（あずさ監査法人グループ）による第三者保証を受けています。